

① 芸術文化情報発信サイトに関する取組 【資料3ー1】参照

関連する実行プラン
1ー (1) ー① 芸術文化活動情報発信の基盤整備
1ー (1) ー② 芸術文化に関する情報内容の充実
1ー (2) ー① 芸術文化の魅力を伝える機会の創出
3ー (2) ー② 芸術文化活動の担い手と受け手をつなぐ機能の充実
4ー (1) ー① 芸術分野がつながる活動の推進
5ー (1) ー① 芸術文化活動を行う個人・団体のネットワークの構築
5ー (1) ー③ 芸術文化の活動場所の把握
令和6年度の取組
◇情報発信サイト公開準備
◇情報発信サイト周知 ・コンテンツや対象者をフォーカスした周知方法の実施。
◇ブッシュ型情報発信の実施 ・Instagramの開設。サイトの更新情報を中心に、サイトへのアクセスを促す導線づくり。 ・動画や画像等Instagram機能を活用や効果的な発信方法の検討、実施。
◇情報発信サイトの活用方法の検討（魅力の発信、交流会、相談機能） ・サイトを通じた芸術文化の考え方の普及。 ・まどかフェスティバルでの連動事業の実施。
◇個人・団体の情報収集 ・情報収集と併せて、サイトの周知、利用を促す。 ・サイト利用に係るアーティスト等のフォロー。
◇活動場所の情報収集とサイトへの掲載

② 芸術文化を支える人材育成のためのアートマネジメント研究

関連する実行プラン
1ー (2) ー① 芸術文化の魅力を伝える機会の創出
3ー (1) ー② 芸術文化活動の企画・運営者（団体含む。）への支援
3ー (2) ー① 芸術文化活動を支える人材の育成
令和6年度の取組
◇九州大学長津研究室、大野城まどかぴあとの共同研究として実施 ・ファシリテーター及び市民レポーター研修の実施。 ・今後、実施を進めるための方向性やゴールの検討と制度の構築。 ・担い手が活躍する仕組みの検討。
＜研究から構築する制度の目的＞ 市民と芸術文化の距離を近づけ、芸術文化の楽しさ等を伝えるためのつなぎ役として活躍してもらうため、スキル向上だけでなく、つなぎ手としての役割を果たしてもらうための人材の育成と場づくりを目指すこととする。

③芸術文化の他分野への活用

関連する実行プラン
4ー (2) ー② 芸術文化の他分野への活用
令和6年度の取組
◇連携会議の実施（年6回程度を予定）
◇実施内容（案） （1）芸術文化情報サイト「ツナグト」について ・職員説明会の実施（連携会議委員含む職員）。 ・周知方法や今後の活用方法の検討。 ※周知方法の検討については、広報部門の出席の依頼も検討。
 （2）まどかぴあ課題の検討 ・まどかぴあが市に協力してほしい事項や課題となっている事項について、協議を行うことから芸術文化分野と他分野のつながりを検討する。
 （3）芸術文化を用いた事業の調査、公表 芸術文化がより市民の身近なものと感じてもらえるように、芸術文化を用いた取組を知ってもらう必要がある。連携会議参画課の分野（福祉、高齢者、教育等）において、芸術文化を用いた事業はすでに実施していると考えられることから、所管団体に対して調査を行い、情報を収集する。収集した情報は、市民や他団体に伝え、教習するなど、展開できるような取組を検討する。

④ 芸術文化の考え方の普及や芸術文化活動の周知

関連する実行プラン
2ー (1) ー① 誰もが体験・鑑賞できる環境づくり
2ー (1) ー② 誰もが体験・鑑賞できる機会の創出
4ー (2) ー① 芸術文化活動を通じて全ての人々が地域と関わる機会の充実
令和6年度の取組
◇大野城市まちづくり出前講座へのメニュー化
◇プランの周知（芸術文化に関する考え方の普及） ・コミュニティ文化課主催イベントの場を活用した周知。 ・芸術文化情報サイト「ツナグト」を活用した周知。 ・市の関係団体や商工業等へのアプローチ方法の検討及び実施。
◇芸術文化を活用した事業例の蓄積 ・考え方や取組を周知するための材料を増やす。
◇コミュニティセンター等での芸術文化体験イベントの実施、取組の周知 ・「おしゃべりワークショップ わたしが知ってる大野城のはなし」実施。 ・取組の幅広い周知方法の検討、実施。
◇芸術文化に関する取組の可視化、周知 ・プランの目標である子ども、高齢者、社会的少数者等の取組を把握し、参加を促せるような周知方法を実施する。

